

温泉を楽しむ

塩田史子(市之瀬)



温泉好きの方は大勢いると思うが、私もその中の一人だ。休みを合わせたり、お財布と相談したりすると、なかなかよつちゆうは行けないが、たまに行くところで楽しみ倍増である。温泉旅館に泊まって、お湯はもちろん、料理やお酒も満喫して、ゆつくりするのも良し、また、近くの温泉地へはドライブも兼ねてもらい湯に行くのも好きだ。

先日、友人と三人で金沢へ行ってきた。三人とも温泉好きだが、このメンバーで行くのは四年前に高瀬温泉に行つて以来、実に久し振りでた。今回は友人の一人が五月に結婚が決まり、それに合わせてすぐに計画。行き先も以前から行きたかった金沢に意見が一致した。そして、当日は特急「雷鳥」に乗って出発。最初に「ドライブ」も兼ねて、なんて書いたが、やはり、ふだん車の運転から離れられない生活の中で、のんびりした

列車の旅というのはとても新鮮でワクワクした。

金沢に着いてからは、忍香寺や尾山神社、兼六園を観て、加賀百万石の風情を味わった。そしてその後、宿のある湯涌温泉へ。本当なら荷物を降ろして、すぐに一回目の入浴へ行くのがいいが、夕食までにあまり時間がなかったため、浴衣に着替えるだけにした。やはりお料理を食べる時には、浴衣の方が気分が盛り上がる。そして、おいしいお料理で満腹のおなか落ちて、酔いも覚めてきたところで大浴場へ。湯涌温泉の湯は、塩分が多くてしょっぱかった。また、適温で気持ちよく体が温まり、肌はスベスベ。これが温泉の醍醐味だと、いつも思う。この後、男湯と女湯が替わったところで一回、翌朝にもう一回入った。みんな大満足で新津へ帰って来たのは言うまでもない。

さて、この満足感と引き替えにお財布の中は寂しくなったが、そう言いながらも、四月には山形へ行く予定である。

このバトンを大鹿の大田美保さんにリレーします。

*

新津の文化財①

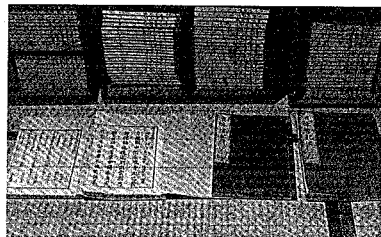
桂家国学関係資料

～県指定文化財・書跡典籍～

昭和42年3月25日指定

新津桂家は現存しませんが、寛文年間(一六六一～七二)に能登国(現在の石川県)から移住してきた旧家です。

桂家は初代養秀以後次第に発展し、新発田藩新津組二十二ヶ



村の大庄屋を命じられました。敬神崇祖、儒学の家系で、四代養章は垂加神道を学び、万巻の書を蔵して「萬巻楼」と名付け、六代養正は平田篤胤の門下として本居内遠、大國隆正と親交を持ちました。そして、七代養重も国学に傾倒し、鈴木重胤門下として庄内の大滝光憲とともに、重胤の大著「日本書記伝」の刊行を手伝いながら、その校閲者になっていきます。

桂家の国学関係資料は、重胤から贈られた「日本書記伝」の浄書本百四十八冊をはじめ、重胤の著述、稿本、筆墨書簡などを主とし、ほかに本居宣長、加茂真淵、平田篤胤などの遺墨二百四十六点を数えます。

これらの資料は江戸時代における原史料であるとともに、国学の地方伝播の実態を知るうえでも大変貴重な資料となっています。

新津市の人口

男	32,241 (+20)	2月28日現在 (内は前年比)
女	34,531 (+20)	
計	66,772 (+40)	
世帯数	19,143 (+26)	
2月中の動き		
出生	42	死亡 48
転入	70	転出 16
		結婚 16
		離婚 2

お買物、ご用命は市内で

4月16日(日)まで

小作青史展

4月22日(土)～5月28日(日)

春季特別展

—森蘭斎・狩野玉元—

どうぞお見逃しなく。

午前9時～午後4時30分

TEL 22-1400

石油の世界館

- ・メニューが新しくなりました。
- ・土曜日(第2以外)もランチ始めました。

和洋レストラン

さんど
どっぴ

新津市古津駅前(朝日)

☎ 0250(23)0310